

# 宮前区観光協会創立5周年記念号



人が好き  
緑が好き  
まちが好き

# 宮前の風

<http://www.miyamae-kankou.net>

## 宮前区観光協会5周年、観光協会・小泉顧問に聞く



が多い所為もありますが、それも暮らし易い人気の地域だからと思います。観光協会としてもより一層、魅力的な地域づくりに努めていかなくてはなりません。観光協会メンバーも商店会関係者のほか、他の分野の方々にも参加して頂くとよいですね」

### 2. 観光協会の活動、今後の取組み

記者「これまでの観光協会の活動、今後の取組みについてお伺いします」

小泉「平成24年度でみると、①宮前区観光ガイドの会」と連携したウォークイベントの実施、②区民祭への参加、③宮前区誕生30周年記念協賛事業の実施、④観光協会ホームページの運営、⑤区内開催の各種イベントへの協力、それから宮前区観光情報記者の皆さんとの観光情報収集による『宮前の風』の発行などですね。『宮前の風』では、宮前区の歴史とか見どころとかお店とかを紹介しているが、こういふ広報紙は他の区ではなく、素晴らしい。同紙では今後、区内にたくさんある坂、そこに秘められた物語などを紹介していくとよい。また、区内には昔話も多く、埋もれつつある話もあるので、それらを掘り起こし、記録にとどめおくことにより、一層宮前区への関心と理解が深まっていくことを思っています」

### 1. 宮前区観光協会誕生の経緯

記者「宮前区観光協会設立に至る経緯についてお伺いします」

小泉「川崎市観光協会の斎藤文雄さんから『市内の他の区はあるが、宮前区だけには観光協会がない。考えてくれませんか?』と言われたのが発端です。それから2年、各種団体の長など24人が発起人となり観光協会設立の準備会を立ち上げ、当時の大下区長さんなど区役所の方々と相談するなどしました。観光協会のメンバーには、われわれ農業関係者より多くは商店会関係者にやつてもらつたほうがよいと、『住んでよし、訪れてよし』の考えをもとに進めていくこととし、平成19(2007)年に発足しました。近年、少子化が叫ばれ人口減少が憂慮されていますが、宮前区民は年々歳々、人口が増えています。平均年齢も全国的にみて若い。大都市のベッドタウンとして人口流入

いうかたちで、小学校存続を勝ちとったのです。野川小学校が昭和48(1973)年に創立100周年を迎えたとき、私はPTA会長をしていて、そういう小学校史に感動を覚えた記憶があります。これは1例ですが、ほかにもこうした区内の歴史が沢山埋もれていると思います。それらを掘り起こして次の世代に伝えていくのも観光協会の役割だと思います」

### 4. 観光的な観点からみた名所旧跡

記者「観光的な観点からみた名所旧跡が区内には色々ありますね」

小泉「その第一が影向寺でしょう。影向寺の薬師三尊像は現在、重要文化財ですが、明治33(1900)年には国宝の指定を受けているのです。それが、昭和25(1950)年施行の文化財保護法により国宝を外され、重要文化財の指定と格下げされました。歴史的にみても造型的にも国宝に値します。影向寺さんは長年、国宝指定の署名を募り、多くの方々の賛同を得ています。私も、観光協会としても、国宝指定に取組んでいきたいと考えています。影向寺をはじめとして区内には沢山の、歴史的に重要な神社仏閣、そして遺構・遺跡があります。これらを区内外に広く周知していく、これも観光協会の役割です。その点、『宮前の風』では色々と取組んでいただいているが、今後もおおいに期待しています」

小泉顧問の宮前区観光協会への熱い思い、宮前区発展への強い思いを、ご多忙のなか2時間にわたりお話を伺いました。

【次号予告】小泉顧問取材時に、耳よりなお話を伺った。顧問が10代後半から30代後半にかけ20年をかけて開発した「野菜」についての秘話。われわれ消費者3人が初めて耳にしたこと。農業関係生産者は、知る人ぞ知る。セレサ川崎農業協同組合顧問の面目躍如、そのお話は次号で紹介。

(文責:坪井喬 撮影:青柳和美)

## 地域の歴史の中に 人々の叡智を探る

坪井喬(桜ヶ谷在住)

神社仏閣の歴史を訪ね調べるときに留意するのは、過去の歴史が現在にどのように活かされているか、生きているかということ。過去の歴史が封印されることなく、意識することなく今の生活の中にどのように活かされているのか。地域によっては過去の歴史は記憶の彼方に消滅しているが、宮前区とその周辺には今も脈々と息づいているのを感じる。その点が、宮前区の歴史を探索していて興味深いところ。取材していく、新住民という言葉を耳にする、私は当地に来てもうすぐ20年の新住民。新旧住民の垣根を取り払うツールとして、歴史探索を介し、過去から現在に貫流する人々の叡智を求め、綴り、いずれは冊子に纏めていければと思っています。

## 平瀬川の四季折々の風景 そして、人を伝えていきたい

渡辺寛美(菅生在住)

我が家前は平瀬川が流れ、春は桜から始まり夏は川遊び、秋はコスモス、冬は雪景色、この地に住む人は人情があり祭り好きで酒が好き、宮前区の一番の観光はやはり人ですね。

人はほめて育てると言いたいです。それでは皆様、大きな声で「宮前区、大好き~」そして小さい声で内緒の話、区政30周年イベントのオープニングに出演したコスミンちゃんの中に入っていたのは私です(7月なので熱くて...)20年後の区政50周年記念行事にも参加したいですね。



## 宮前区の情報は... 区役所へGO!!

宮前区では、さまざまな情報を発信しています。  
お散歩情報や生活に役立つ情報もたくさんあります。  
区役所に情報を集めに行くのも楽しいですよ!!



### 『ぐるっとみやまえ』

宮前区のキャラチフレーズは、「人が好き、緑が好き、まちが好き」。転された皆さんに、ぜひこのまちを好きになっていいきいきと暮らしてもらいたい、そんな思いから区民による区民のための情報誌ができました。

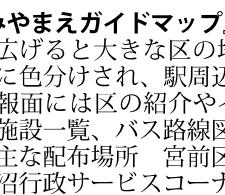
「ぐるっとみやまえ」は、区民の目線で、①宮前区を好きになろう(区の魅力紹介)  
②地域にどんどん参加しよう(お祭りや市民活動などの紹介)  
③もっとくわしく知りたい(コンテンツごとの行政情報誌の案内)の、3つの視点から世代別にまとめています。  
\*配布場所 宮前区役所企画課



### 『宮前区ガイドブック』

区内を菅生・平エリア、鷺沼・宮崎エリア、有馬・野川エリアの3つのエリアに分け、公園、自然、神社・仏閣、まちのスポットなど区の見所をくわしく紹介しています。「お散歩コース」10コースの地図も掲載。

ガイドブックを片手に、まちの魅力を再発見してみませんか。  
\*主な配布場所 宮前区役所地域振興課・向丘出張所・鷺沼行政サービスコーナー



### 『みやまえガイドマップ』

広げると大きな区の地図となります。地図面は町ごとに色分けされ、駅周辺の拡大図や避難所一覧も掲載。情報面には区の紹介やイベントカレンダー、区内の主要施設一覧、バス路線図などが掲載されています。  
\*主な配布場所 宮前区役所地域振興課・向丘出張所・鷺沼行政サービスコーナー

宮前区観光協会創立5周年記念号

第13号 2013年4月発行

事務局 宮前区観光協会編集・作成 宮前区地域振興課

T E L 0 4 4 - 8 5 6 - 3 1 3 5



顧問に聞く、坪井、渡辺記者

# 大好き★宮前！ miyamae

宮前を熱く語る  
—宮前区観光協会役員—

『宮前区観光協会の活動を支える23名の役員の中から、会長、副会長（2名）、会計（2名）、監事（2名）の5名の役員に宮前への熱い想いを伺いました!』



調整役として、宮前全体を考えている

川島 芳茂 会長 (宮崎在住)

宮前区商店街連合会常任相談役

区役所向かいの東急宮前平ショッピングパーク内にある自ら理事を務める「みのり会」のパンやさん、ひよこ、の前で話を伺いました。

「商店街連合会常任相談役」としての活動内容は会合の都度出席してみんなの話を聞きアドバイスすることや県や市の主な会合に出席して意見を述べることです。

好きなイベントは宮前区民祭です。

区民祭は自分と同じ位の年代の有志が30年前に始めました。第1回目はこのショッピングパークと隣の本屋さんの敷地を使ってです。全部東急電鉄の持ち物で全面協力してくれました。いまだに自分としても愛着があります。

好きな場所は東高根森林公園です。四季が楽しめるし、1周30分位散歩すると良い運動になります。

観光協会の役員は色々な面で能力の高い方がいらっしゃるので、進んで意見を出し合い実行していきたいです。大山街道は評判が良かったので今年もやりたいですね

記者と会うときは決まって「自分はもう年だからそろそろ…」と言う言葉がでてきますが、障がい者支援「みのり会」の活動に関しては「親も利用者さんも高齢化しています。ここで投げ出すわけにはいきませんので、まだまだ頑張ります」

聞き手：渡辺記者



モノをつくるよろこび

杉田 進 副会長 (菅生在住)

宮前区全町内会・自治会連合会会長

自治会を通じて防犯、廃棄物問題、地域の中では文化活動として盆踊り、お祭り、敬老会の計画、実行を先頭に立ってやっています。今、特に大切と思われる防災訓練、避難所の運営管理、交通指導です。年に2～3回自分の自治会がある交差点（蔵敷）に立って指導しています。

区内のお勧めスポットは近くの平瀬川です。自治会では、定期的に川の清掃活動をしています。

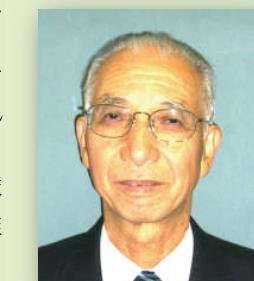
お勧めイベントは、平瀬川さくら祭で、市長もお見えになります。

趣味は物を作りあげることです。自治会活動も趣味のひとつです。大勢の人との関わりがあり、ここでも物を作る喜びが生かされています。嫌だったらやりません。

百姓も好きです。宮前区で育った野菜を地域の皆さんに食べて頂く、これも趣味かな。

宮前育ちの野菜はおいしいですよ。今の時代、農業を続けるのは大変なことですが頑張ります。

聞き手：渡辺記者



観光地を掘り起こしてPRを

吉田 茂 副会長 (宮崎在住)

宮前区全町内会・自治会連合会副会長

一観光協会の抱負について伺いました

吉田茂「宮崎のこの辺一帯は戦時中、政府に買収され軍用地として整地され、歴史的遺跡や構造物が全て失われてしましましたが、野川や土橋には色々と残っています。高名な影向寺をはじめ『宮前の風』の「宮前区の歴史」欄に紹介されているほかにも、未だ眠っているものが沢山あると思いますので、観光協会の抱負としては、観光地を掘り起こしてPRに努めていきたいと思っています。その上で『宮前小学校100年史』も参考になります」

—趣味と心がけていることなど—

吉田「園芸が趣味で、草花、菊作りに精を出しているが、品評会で賞を狙うことなどはせず、純粋に菊の丹精を楽しんでいます。町会の同好の方々と週に数回、宮崎会館で卓球などを楽しみながら、体力維持に努めています」

聞き手：坪井記者



もっと知りたい宮前の歴史

小泉 俊輔 会計 (犬藏在住)  
宮前区商店街連合会会長

区内9つの商店街で構成され商業振興、諸問題に関して情報交換をしています。今、問題になっているのは商店街の街路灯の老朽化、倒れたりして危ないところ等、調査して新しく取り替えることを話し合っています。

犬藏で生まれ向丘小学校菅生分校（現在は子育て支援センター）で学びました。「分校は、当時複式学級（片方が授業を受けている間、片方は自習）でした」

とその頃の様子が書かれている『続・ふるさとを想う—平瀬川にそった村から—』の本のページをめぐらながらなつかしそうに話してくれました。前向きで好奇心旺盛、平瀬川探索マップや蔵敷商店会マップの作成配布も手掛け、この地の歴史、観光といろんなことを知っていて生き字引みたいな方です。「区民の皆さんも宮前区の歴史をもっと勉強してほしいです。散歩コースで学んだり、友人に歴史の好きな人がいるので講演会もやりたいですね」

聞き手：渡辺記者



伝統文化の継承

鈴木 和子 会計  
宮前区文化協会会長

文化協会の主な活動は伝統文化の継承、地域文化の向上、福祉活動です。区内でお勧めの場所はホタルのいる飛森谷戸（とんもりやど）です。風景が好き、心がなごみます。

お勧めイベントはもちろん文化協会のイベントです。文化祭、美術展といろいろありますので見にいらしてくださいね。

趣味はカメラ、いろんな空の写真を撮っています。

観光協会役員としてのこれから抱負は、理事会でいろいろイベントを提案して、その中から選んで実行していく事。これからも役員として頑張っていきます。（笑顔が素敵で和子先生がいらっしゃると場がぱッと明るくなる、不思議な力を持っている方です）

聞き手：渡辺記者



次世代の若者に期待

矢澤 博孝 監事 (初山在住)  
初山獅子舞保存会会長

保存会会員は150世帯で構成、平成6年から会長をしています。

主な活動は秋祭りの時に菅生神社に奉納する獅子舞です。笛、舞子等20名1組で活動しています。昨年の11月3日には明治神宮に奉納してきました。

区内でお勧めの場所は、つつじ寺で有名な神木の等覚院です。仁王門が貫録、風格があります。ぜんそく封じ寺とも呼ばれているので、これからの観光スポットにしたいですね。

お勧めイベントは『みやまえ映像コンクール』です。何かを訴えたり発信したりするとき文章より映像だと3倍、伝わります。コンクールに出て発表した素人の中学生が賞をもらい自信をつけその道に進みたいと思えば、市内には日本映画大学もあり勉強する場も整っています。発表した子どもたちの20年後が楽しみです。

聞き手：渡辺記者

【理事】(順不同・敬称略)

大津 三郎	板津 正且
川口 尊志	井田 耕夫
澤野 淑	長沼 初
山家 茂夫	大槻 信行
山田 博樹	宮台 泰洋
佐藤 乙依	柴崎 太喜一
三谷 益己	篠田 勝夫
森川 一郎	観光情報取材記者

「観光協会は本欄で紹介した役員のほか上記の方々で構成されています」

アリーノで学べ広がれ  
コミュニティ

川崎市有馬・野川生涯学習支援施設（アリーノ）・東有馬4丁目）は、久末駅沿線（有馬街道）沿いにある3階建ての施設です。オープンを前に2009年5月9日盛大に行われてから今では多彩な講座・教室が年間延べ約250開催され多くの人が学び、お祭りや音楽コンサートなどのイベントも年間約10回を数え参加者がその時を楽しんでいる。年間来場者は約10万人を超えて、学習やイベントを通して学んだりコミュニケーションづくりに大きな「力」になっている。談話やギャラリーとして利用できるフリースペースや地域図書室、グループ学習室や地域図書室、グループ学習室もある。おはなし会など親子で楽しめる児童室やコンサートなどを実している立派な施設だ。

あ



戦国の兵  
眠る十三塚

十三塚、中世にあった荘園と莊園との境や、村と村の境に築いた一列に並ぶ十三の土まんじゅう型をした盛り土のことです。境界に築いて災禍が領地に入つてこないことを願ったものです。十三塚は十三坊塚とも。昔、当地のトウモロコシ畑に隠れていた落ち武者が、トウモロコシの葉が風で揺れたのを、敵の襲来と過って自害、その彼らを葬ったのが、十三坊塚と伝説にいう。権六谷戸では今日も、禍のトウモロコシをつくらない。実際に見てみると、十三あつた塚は、一帯の宅地化の進展とともに姿を消してしまったが、久しぶりに訪れて不思議と懐かしい気持ちになった。



せ



竹林の風吹き抜ける  
小径かな

東名インター付近は、昔、「竹の里」と呼ばれていた。開発が進み、竹林は激減したが、今も竹林を抜ける小径（道）が残り、その一部では、4月ごろから「朝掘り竹の子販売」の看板が出され、掘り立ての竹の子が売られてる。

数十年前に私はこの竹林の近くで生まれた。現在、生まれた地は、東名高速道路の橋桁の下になってしまったが、久しぶりに訪れて不思議と懐かしい気持ちになった。

地元の方々から竹の子をいただくことがある。文字通りの掘り立てで、新鮮なうちに茹でるのが大切だと教わった。新住民の私たちに親切にもあく抜きのための「糠（ぬか）」も一緒に付けてくれた。

竹林は減ったものの人情という温かなぬくもりは残っている。竹林に抜ける風は、いろいろな思いを運び、思い出させる風であった。



お雛子に  
神輿が揺れる秋祭り

秋の訪れとともに区内各地では、秋祭りが始まる。10月第1日曜日に有馬地域では由緒ある有馬神明神社（有馬5-13-24）の秋季例大祭が行われる。高台に位置する神社周辺は、梨などの果樹園が広がり季節になると採りたてを買いために来る姿が見られる。また眼下に広がる有馬の街並みが見える眺めの良い所でもあります。祭り雛子は風にのり宵宮は、伝統芸能の『馬絹雛』にこのような文化がある事が嬉しい。いつまでも地域の貴重な芸能を残して欲しい思いです。翌日は早朝から祭り半纏を着た担ぎ手が神社に集まる。関東最大級、重量2トンとも云われる大きな神輿を見て人びとの驚きの声が聞こえる。

お



本遠寺 越路吹雪の  
眠る墓

本遠寺は、鎌倉時代の建治元（1275）年に日蓮の弟子・日朗が一夜の宿のお礼にと稔持仏を納めたことに始まると言えられています。本遠寺には、シャンソン歌手・越路吹雪夫妻の墓がありいくつかの遺品も本堂に祀られています。

越路吹雪さんのファンクラブ、「コスモス会」の方達が墓参りに訪れたとき記帳するノートがもう3冊目、今でも毎日には、ファンが全国から集まり、亡くなった時間にタバコ（ラーク）に火をつけ小さい剣山に立てお参りするドラマチックな出来事が続いている。小高い丘の上にあるここから眼下に見える菜の花畑、その後ろの森と山はほとんど谷戸です。

ほ



夫婦の墓がありいくつかの遺品も本堂に祀られています。

越路吹雪さんのファンクラブ、「コスモス会」の方達が墓参りに訪れたとき記帳するノートがもう3冊

目、今でも毎日には、ファンが全国から集まり、亡くなった時間にタバコ（ラーク）に火をつけ小さい剣山に立てお参りするドラマチックな出来事が続いている。小高い丘の上にあるここから眼下に見える菜の花畑、その後ろの森と山はほとんど谷戸です。

や



矢上川ミヤコタナゴが  
住んでたよ

犬塚地区の矢上川は、現在殆どが暗渠になっていますが、昔は、谷戸の涌き水から流れきれいな川で、ミヤコタナゴやフナ、しじみなど清流にすむ生物が、たくさんいました。子どもがミヤコタナゴを捕まえて遊んでいたそうです。

実際にに行ってみると、上流部は暗渠が多い矢上川だが、JR梶ヶ谷貨物ターミナル駅付近からはすっかり顔を出す。一時は汚れた矢上川だが、現在は夏から秋にかけ、鮎やオイカワなど小魚の群れが川面を真っ黒にするほどで、大きな真鯉や紺鯉や亀の姿も見かける。終年、白鶴鶴やカルガモの番（つがい）や親子連れの姿を見かけ、冬には渡り鳥の小鴨が飛来してくる。住宅街を流れいく矢上川は、治水のため深く穿たれ、両岸に設けられた柵のたまり降りらず、かつてのような川辺で遊ぶ子供の姿はない。

ろ



六地蔵やさしく見守る  
こどもたち

区内にはいくつかの六地蔵がある。そのうち平4丁目の薬王庵そばの六地蔵は、赤いよだれ掛け等が時々付け替えられ市民に親しまれている。

この六地蔵の間、正面には石造りの如意輪観音像の供養塔があり、塔は「あがり観音」といい、三十三所観音靈場巡拝を終えた人々がお参りをする。この庵（いおり）は、江戸時代の中ごろの宝暦年間（1751～64）に準西国稻毛三十三所観音靈場を開いた山田平七翁ゆかりのものだ。

体の弱かった平七は、観音信仰を深め、西国や秩父・坂東の観音靈場を巡礼し、その影響を受けて、近隣の寺や庵の札所を設けた。今でも12年ごとの札所を開設している。来年午年にご開帳されている。来年午年（2014年）は、午年でありご開帳の年である。12年に一度のご開帳に触れてみてはいかがですか？

## ~いつまでも、伝えたい、 みやまえ 残したい、私たちのふる里~ 地域カルタ



瑠璃色の  
カワセミ飛ぶや平瀬川

一時は汚れていた平瀬川が、地域住民の行政への要望で豊かな自然の川に変貌しました。今、市民に愛される散歩スポット、親水広場となっています。

春には鮎も放流されるようになります。時にはカワセミの姿も見られるようになりました。

4月には平瀬川さくら祭りがあります。

川風で、よさに比べ気温が低いせいか区内のサクラが散りかけた頃、満開になります。いろんな種類のサクラの花を見る楽しみもありますが、私は親水橋傍に咲く白色の大き目の花を多数ついている太白が一番好きです。花見の宴も見られ、平瀬川は春爛漫です。



る



\*取材記者が好きなカルタを拾いました。

坪井喬・・・「せ」「や」 青柳和美・・・「あ」「お」  
渡辺寛美・・・「ほ」「る」 高橋弘幸・・・「ち」「ろ」

販売中

【問い合わせ】

044-855-3133（宮前区役所企画課）

